

別記様式

		担当課	総合政策課	
会議の名称	令和5年度第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会			
開催日	令和5年6月30日(火)			
開催時間	午前10時00分～午前11時30分			
開催場所	鴻巣市役所 1001会議室			
議長(委員長・会長)氏名	なし			
出席者(委員)氏名 (出席者数)	戸ヶ崎 明彦 (鴻巣市商工会青年部) 佐藤 百合子 (鴻巣市商工会女性部) 河野 廣 (さいたま農業協同組合) 黒岩 健一郎 (日本郵便株式会社鴻巣部会) 佐藤 芳隆 (鴻巣市私立幼稚園・認定こども園協会) 藤村 郁夫 (鴻巣市立小・中学校校長会) 鈴木 将浩 (鴻巣市PTA連合会) 小林 美鈴 (鴻巣市民生委員・児童委員協議会連合会) 水谷 治 (埼玉縣信用金庫鴻巣支店) 横山 敏也 (あいおいニッセイ同和損害保険株式会社埼玉支店) 伊藤 恵 (株式会社フラワーコミュニティ放送) 新田 純康 (大宮公共職業安定所) 西岡 利浩 (埼玉県県央地域振興センター) 計13名			
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	田尻 要 (ものづくり大学 教授) 計1名			
事務局職員職氏名	市長政策室長	藤崎 秀也	市長政策室副室長	沼上 勝
	総合政策課長	富田 真久	総合政策課主幹	千葉 昌子
	総合政策課主任	榎 勇太	総合政策課主任	大島 悠志
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(0名)			
会議の内容	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介(自己紹介) 4 議題 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略について (2) 地方創生とSDGsについて (3) デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業について 5 その他 6 閉会 【次第4 議事】 (1) 第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてと(2) 地方創生とSDGsについて説明を行い、委員から質問・意見をいただいた。 ○それぞれの基本目標に対するKPIとして令和6年度の目標値が設定されているが、今現在の状況は。令和6年度の目標に対して、次の令和6年2月の懇話会			

で効果検証を行うのでは対策が取れないのでは。

⇒まち・ひと・しごと総合戦略の成果指標については、鴻巣市総合振興計画における施策や基本事業と同じ指標を使用しており、現在、4月から5月にかけて実施したまちづくり市民アンケートの結果等をもとに行政評価として、各部署では令和4年度の実績値について算出し、その分析を行っている。市が行っている事務事業全てについて行政評価に基づく進捗管理を行い、毎年改善を図っているが、スケジュールの関係上、今回の会議の中で進捗度合いを委員の皆さんにお示しした上で検証していく。

○KPIについて、基準値が平成30年で目標値が令和6年ということだが、いつの時点で設定した目標数値か。具体的には、教育の分野で「学校での生活に満足していると回答している児童生徒の割合」が、基準値92.9%から目標値92.8%に減っており、よくなる数値目標を入れるべき指標だと考えるが設定の根拠は。

⇒第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した年度が令和元年度であり、基本的にはその前年度の平成30年の数値が基準値となって目標値を設定している。こうした中、総合振興計画後期基本計画を令和3年度に策定し、後期基本計画との連動を図るため、指標の見直しを行い、総合戦略の改定も行った。そのため、R4新規取得といった記載は、後期の基本計画策定時に追加したものである。ご指摘の指標については、令和2年の実績値が91.4%といった現状にあり、そういった状況に対して令和8年度の目標値を93.5%と設定した中で見直しをかけ、92.8%といった数値目標に変更した。

(3) デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業について説明を行い、委員から意見等をいただいた。

○にこのすについて、免許センターに訪れる人がカフェを運営しているということを知っておらず、中では様々な取組を行っているが外観からは伝わらない。指定管理者とは何年間の契約か。意欲のある指定管理者を選んでいただき、にこのすだけではなくて通り全体のにぎわいにつなげた方がいい。

⇒指定管理者との契約は3年間で、令和6年度までの契約となっている。指定管理者とは月に1回定例会として、市民の方からの意見を指定管理者に伝える場を設けており、今後施設のPRについて今以上に努めていくよう指導していく。

○デジタル田園都市国家構想交付金について、地方創生推進タイプと地方創生拠点整備タイプを活用されているということだが、デジタル実装タイプの検討を行っているか。現状、にこのすというお店をどうするかという話になっており、新しいメニューの小学校や中学校の給食での提供や、レシピが拡散されるようなインスタライブ等の仕組みがあるといい。また、有名なシェフによる鴻巣市産のものが使われたメニューをにこのすで提供し、そのレシピをYouTubeで配信するなど、デジタル実装という要素が加わることで違う景色が見えてくると考えるが、デジタル実装タイプの交付金をもらって環境を整備する意向があるか。

⇒デジタル実装タイプは、令和3年度に創設されたもので、令和4年度については公共施設のドローンを活用した3Dマッピング化、令和5年度は教育の分野でデジタルドリルの導入や学力調査に交付金を活用している。また、コウノトリ野生復帰センターにおけるライブ配信ができる環境整備についてもこの交付金を活用しており、にこのすについてもデジタル実装タイプの活用は十分考えられる。

	<p>○鴻巣は教育ICTに早くから取り組んでおり、デジタルに強いまちというイメージを持ってもらいたい。今後、デジタルというものが避けられない世の中なので、鴻巣市の中でデジタル技術の活用をしっかりと表明した方がいい。</p> <p>⇒本市では、教育の分野におけるICTの推進に力を入れており、全国的にも先進的な取組ということで注目されているが、それ以外の分野でもデジタル技術の活用を広げていくことが必要であり、市全体の予算編成に取り組んでいく中で、交付金の活用について検討していく。</p> <p>○にこのすの施設の来館者数が16,100人となっているが、2階のスペースでの様々な自主事業への参加など、利用率の状況は。まだ2年目だが、実施していることをしっかり発信することで、拠点としての役割を担っていくと考える。</p> <p>⇒カフェの利用率が大半で、その次が農産物や特産品等の物販の利用、そして月に2・3回程度実施する自主事業への参加となっている。多目的室を利用した会議やコワーキングスペースとして利用できるが、多目的室の利用が伸びていないため、市の予約システムからにこのすの多目的室を予約できるようにしており、周知等を含めて来館者数の向上に努めている。</p> <p>○こうのとりの伝説米の栽培面積が増えていないとの話だったが、こうのとりの伝説米部会もコロナの影響で書面でのやり取りで、状況を把握していないと思うため、事務局を通して情報共有を図っていく。</p> <p>○令和8年に道の駅が完成されると伺っており、施設内容については、様々な分野に影響すると思うが、どのように検討しているか。また、どのような施設になるかイメージはできているか。</p> <p>⇒道の駅の整備については、道の駅整備プロジェクトという専門部署を中心に事業を進めているが、まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、大きな影響があると考えており、進捗状況に合わせてこの懇話会でも意見を求めたいと考えている。昨年度は、株式会社ファーマーズ・フォレストを管理運営事業者として決定し、鴻巣市と協定を締結した。株式会社ファーマーズ・フォレストは、宇都宮のろまんちっく村等を請け負っている事業者で、その他にも大谷地区の採掘場での体験型観光等も実施しており、本市の道の駅整備についても、コンサルティングを行っていただきながら検討を進めている。</p>
<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・令和5年度 鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会委員名簿 ・令和5年度 第1回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会座席表 ・令和5年度 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会レジュメ